


氏名	風待ち海道倶楽部
連絡先	住所：〒685-8585 島根県隠岐郡隠岐の島町城北町1番地 電話番号：08512-2-8564 FAX：08512-2-2460 e-mail：nobe-k0123@e-okii.net
事業名・活動名	OKIまるごとミュージアム ～地質資源を活かした観光振興プロジェクト～
事業・活動の内容	<p>【背景】</p> <p>風待ち海道倶楽部は、平成15年5月に設立された官民一体となったまちづくりグループである。設立当初は港を中心としたみなとまちづくりを実現するために朝市等のイベント展開を中心に活動していたが、隠岐ならではの地域資源を活かした地域振興・観光振興を目的とした活動へ移行し、地域資源の保護・再生を行いながら観光振興を行うエコツーリズムの推進に取り組んでいる。</p> <p>平成16年度からは、隠岐の地域資源の発掘と人材育成を目的とした隠岐学講座「風待ち海道エコツーリズム大学」を開校している。</p> <p>講座では隠岐の特産でもある黒耀石を中心とした縄文時代からの文化交流、隠岐特有の地層・地質からなる植生、生態系の特徴と人の営みなどについて伝えてきた。このような取り組みを通じて、倶楽部スタッフはもとより島民の中からも徐々に隠岐の地層・地質、植生、生態系などに関心を持つ人が出てき始めている。</p>
	
	公民館講座と連携したエコツーリズム大学

【現在の取り組み・活動】

隠岐の魅力を旅行者に伝えるためには、隠岐に住む人間が隠岐を正しく知らなければならない、という思いからスタートした風待ち海道エコツアーリズム大学及びエコツアーリズムの推進であるが、平成19年度からは、特に隠岐の地層・地質に重点をおいたガイド養成に取り組んでいる。これまでも、エコツアーの中で隠岐の地層・地質の面白さ・貴重性・重要性を伝えるなど活用を図ってきたが、平成19年度からは島根大学等専門性の高い研究機関と連携して、科学的な根拠を交えながら楽しく学べる地質の魅力を伝えている。

特に、隠岐の地層・地質は次のような点においてきわめて特徴的であると言える。

○地層・地質をベースとした生態系・植生分布などの解説を行うことができる点

○隠岐の地層・地質から日本列島の成り立ちや日本海の成り立ちが推測できる点

○日本列島だけでなく、地球規模の地殻変動等にまで思いを馳せることができる点

また、**黒耀石を媒介として古代から広域的な文化交流**があったことが証明されており、地層・地質の解説だけではなくこれらを介した人の営みや日本の歴史を学習することができる点が、隠岐におけるエコツアーの魅力といえる。

こうした魅力を、さらに多くの人に知ってもらい隠岐に親しんでもらうために、平成19年度には島根大学において黒耀石を使った矢じりづくり体験プログラムを提供し、多くの家族連れに参加していただくことができた。

事業・活動の主な成果

事業・活動の主な成果としては次のようなものが挙げられる。

○ジオパーク申請に向けた活動及び課題が明確化

島根大学との連携がとれるようになり、世界地質公園（ジオパーク）の登録申請に向けた活動基盤がより強固なものとなった。その一方で、登録に向けて現在不足している要素など



が判明し、課題も明確になった。しかし、この課題についても、島根大学との連携により、クリアできる見込みがあるため、現在は、来年度の登録申請に向けて準備を進めているところである。

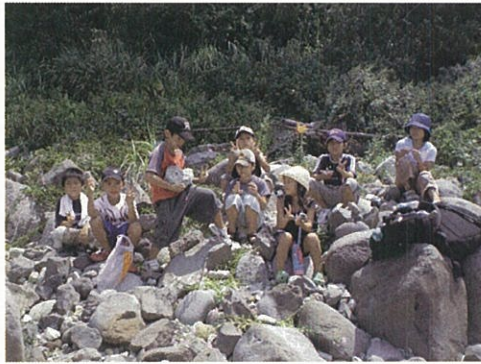
○一般旅行者の満足度向上

エコツアーの中にジオツーリズムという視点・考え方を取り入れた内容として確立した。特に平成19年度からの集中的な取り組みにより、ガイドの形態、ガイドの質が向上し、少しずつ地質についてもわかりやすいガイドができるようになりつつある。また、ガイドブック、資源マップ、ガイドマニュアルを整備し、ツアー内容をよりわかりやすいものとした。



さらに、携帯電話を用いた情報提供の高度化をはかり、ガイドを利用しない場合でも、隠岐の魅力が伝えられる仕組みづくりに取り組んだ。(現在、試用期間を終え、最終調整中)

また、平成20年8月9日・10日には、島根県出雲市平田町から小学生8人(小学2年生～6年生)とお母さん方を対象として、岩石ツアーを実施したところ、黒耀石の矢じりづくり体験や化石採集など大変好評だった。この岩石ツアーは、初の子供相手のツアーだったが、ガイドスタッフも大人相手ではないツアーの面白さを感じるなど新たな隠岐ファン獲得に向けて手ごたえを得た。



化石採集で喜ぶ子どもたち

○外国人旅行者への対応が向上

上記ガイドブック、資源マップ、携帯電話については、十分とは言えないながらも、英訳版を用意することで外国人旅行者への対応も図っている。隠岐を訪れる外国人旅行者は年間を通じて多いわけではないが、実績として徐々に増えつつあり、これらのツールを利用した外国人旅行者からは大変好評を博している。